

西小だより



学校の教育目標:よく考え 仲間とともに やりぬく子 合い言葉 ” Yes, we can. ”

「あったか西っ子」を育むために

校長 岩崎 千宏



秋の深まりとともに、朝・晩の冷え込みが日に日に厳しくなってきました。校庭のモミジも日を追うごとに鮮やかさを増し、秋の終わりを告げているようです。11月は、「あらたまの日」「町小学校音楽会」をはじめ多くの行事がありました。たくさんの保護者・地域の皆様に西小の子ども達の姿をご参観いただき、貴重なご意見をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。各学年の行事に対しても多くのご理解とお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

さて、2学期も残す所、1ヶ月となりました。本日行われた「ひびきあいの日」集会では、人権擁護委員の皆様から寸劇やお話をしていただき、誰もが安心して生活できるようにするためには、「あったかい言葉」や「あったかい行動」が大切であることを教えていただきました。児童会執行部の皆さんも、普段の学校生活の中で、「心ない言動が仲間を傷つけてしまう」ことを、劇を通して訴えてくれました。

最近のニュースの中には、尊い命が奪われる残酷な事件や、相手の心を踏みにじる行動が大きな問題に発展する事案などが後を絶ちません。子ども達に「豊かな心」「温かい心」を育むためには、まわりの大人が手本を示していくことが極めて大切であると考えています。家庭の中でかけていただいている言葉、登下校の途中に地域の方からかけていただいている言葉、教職員が校内でかけている言葉・・・それぞれが「豊かな心」「温かい心」の肥料となっています。ただ、時として「この子のために・・・」と思っかけている言葉が乱暴な伝え方になってしまったり、その思いが正しく伝わらなかったりすることも少なくありません。

価値ある行動や努力したことに対して「誉める」ことと同様に、まちがった行動に対して毅然と「叱る」ことは大切です。ただ、この場合に大人のものさしで感情的に発した叱り方では、子どもの心に落ちていきません。「なぜ、その行動に至ってしまったのか」をいっしょに考えながら、論していくていねいなプロセスが必要になります。大人が相手の気持ち、相手の立場を考えた行動や考え方を示していけば、子どもも相手の思いに伝えようとしますし、それがその子の行動規範となっていくのです。「子は親の鏡」という言葉がありますが、それは同時に「地域社会の鏡」であり、「教職員の鏡」でもあるのです。子どもと関わらせていただいている大人には、それだけの自覚と責任が伴うことを忘れてはならないと考えています。

12月には『西っこまつり』という児童会行事があります。それぞれの学級で、だれもが楽しめる遊びを工夫し、異学年のペアで遊びます。きっと、たくさんの優しい姿、思いやりにあふれた行動を見せてくれるんだろうなと期待をしています。

